

エミレーツ・グループ、2025-26 年期中に過去最高益となる
244 億ディルハム（66 億米ドル）の利益を達成
世界で最も収益性の高い航空会社としての地位を維持

アラブ首長国連邦（UAE）・ドバイ、2026 年 5 月 7 日ー エミレーツ・グループは本日、[2025-26 年期中の年次報告書（英語）](#) を発表し、会計年度の 12 か月目に困難を極めた混乱に直面したにもかかわらず、利益、売上高、現金残高のいずれも過去最高に達したと発表しました。

エミレーツは 2025-26 年期中の報告期間において世界で最も収益性の高い航空会社となりました。

2026 年 3 月 31 日に終了した 2025-26 年期中における **エミレーツ・グループ** の主要な実績は以下の通りです：

- **税引前利益**：過去最高の 244 億ディルハム（66 億米ドル）、前年比 7% 増。 **税引前利益率** は 16.2%
- **売上高**：過去最高の 1,505 億ディルハム（410 億米ドル）、前年比 3% 増
- **現金資産**：過去最高の 596 億ディルハム（162 億米ドル）、前年比 12% 増
- **EBITDA**（利払い・税引き・償却前利益）：強固な営業利益性を示し、411 億ディルハム（112 億米ドル）

エミレーツ航空 は、世界で最も収益性の高い航空会社としての地位を維持しました。主な実績は以下の通りです：

- **税引前利益**：過去最高の 228 億ディルハム（62 億米ドル）、前期比 7% 増。 **税引前利益率** は 17.4%
- **売上高**：過去最高の 1,309 億ディルハム（357 億米ドル）、前年比較 2% 増
- **現金資産**：過去最高の 549 億ディルハム（150 億米ドル）、2025 年 3 月 31 日時点と比較して 10% 増

dnata は、すべての事業部門で堅調な成長と業績を達成しました：

- **税引前利益**：過去最高の 16 億ディルハム（4 億 3,700 万米ドル）、前年比 2% 増。 **税引前利益率** は 6.8%
- **売上高**：過去最高の 236 億ディルハム（64 億米ドル）、前年比 12% 増
- **現金資産**：堅調な 47 億ディルハム（13 億米ドル）、前年比 28% 増

エミレーツ・グループは、所有者であるドバイ投資公社（インベストメント・コーポレーション・オブ・ドバイ、ICD）に対し、35 億ディルハム（10 億米ドル）の **配当** を支払うことを発表しました。

UAE における「第二の柱」税制の導入に伴い、今年、エミレーツ・グループに適用される UAE 法人税率が 9% から 15% へ引き上げられました。課税額計上後の同グループの**税引後利益**は 210 億ディルハム（57 億米ドル）となり、前年比で 3% 増加しました。

エミレーツ航空・グループ会長兼最高経営責任者であるシェイク・アハメド・ビン・サイード・アル・マクトゥーム殿下は次のように述べました。「会計年度の最終月に大きな困難に直面したにもかかわらず、このようなすばらしい業績を達成できたことで、安全性、卓越性、革新、人材、そしてパートナーシップを基盤とするエミレーツ・グループの事業モデルの強靱さと回復力をあらためて示す結果となりました。

2025-26 年期最初の 11 か月間において、グループ全体の業績は非常に好調でした。当社の製品とサービスに対する旺盛な需要のおかげで売上が上昇し、製品、人材、技術、ブランドに継続的に投資することで、健全な利益率を達成していました。また、当社は毎月、目標を上回る成果を達成していました。

2 月 28 日、軍事活動により、UAE を含む湾岸地域における世界の民間航空交通が大きな混乱に見舞われました。エミレーツと dnata は迅速に対応し、従業員や影響を受けた顧客を支援するとともに、資産を保護し、事業継続を確保しました。

当社が幸運にも拠点としているドバイは、長年にわたるインフラ投資と強固な航空エコシステムによって、政府が民間航空機向けの安全な飛行ルートを迅速に確保できる場所となっています。混乱後、エミレーツと dnata は、DXB（ドバイ国際空港）での運航を段階的に再開しました。旅客輸送能力は混乱前と比べればまだ低い水準にありますが、貨物輸送業務は拡大しており、当社は重要物資の UAE への輸送と UAE 経由の輸送を支えています。」

シェイク・アハメド殿下はさらに次のように述べました。「エミレーツ・グループは、これまでも危機や混乱を乗り越えてきました。そのたびにお客様と従業員を最優先にし、以前よりもさらに強靱になって立ち直ってきました。

当社の成功は、従業員一人ひとりの力に支えられています。変化の激しい事業環境においても迅速かつ柔軟に対応できるのは、従業員の存在があってこそです。困難な状況下においても、エミレーツ・グループならではの資質を体現してくれたすべての従業員に、心から感謝をしています。

ドバイの発展を牽引し、航空産業への揺るぎない支援を続けてくださっているシェイク・モハメド・ビン・ラーシド・アル・マクトゥーム殿下、そしてそのご子息であるシェイク・ハムダン殿下ならびにシェイク・マクトゥーム殿下に深く感謝申し上げます。エミレーツ・グループは、三殿下のご指導の下で進められているドバイの成長戦略に貢献できることを誇りに思っています。また、世界の航空業界を支えていただいている全てのパートナーの皆様

心より感謝申し上げます。皆さまの協力と連帯は極めて重要なものであり、エミレーツ・グループ運営の根幹にあるパートナーシップの精神を表しています。」

2025-26 年期中、当グループは成長戦略の一環として、新型航空機、施設、設備、最新技術への投資として、総額 179 億ディルハム（49 億米ドル）を投じました。

エミレーツ・グループの総従業員数は 8% 増加して 130,919 人となりました。これは、エミレーツ航空と dnata が、拡大する事業運営を支え、将来の能力を強化するために、世界各地で採用活動を継続したことによるものです。同グループの UAE 国籍従業員数も 4,000 人を超え、現地人材の採用・育成・定着を目的とした取り組みが成果を上げていることを示しています。

2026-27 年期中の見通しについて、シェイク・アハメド殿下は次のように述べました。「現時点では、米国、イスラエル、イラン間の軍事活動は、停戦合意の下で中断されています。我々は、敵対行為が早期に明確な形で解決して市場の安定が回復することを願っています。しかし、その間も何もせずに手をこまねているわけではありません。

燃料面では、エミレーツ航空は 2028-29 年期中まで十分なリスクヘッジを講じており、また、現在の運航および混乱前の水準への回復に必要な供給量を確保するため、サプライヤーと連携してきました。dnata およびグループ全体において、当社の事業ストリーム、事業規模、ポートフォリオミックス、そして長年にわたる投資が、短期的な課題に対応するための回復力と柔軟性をもたらしています。

エミレーツ・グループは、非常に潤沢な現金を備えた状態で 2026-27 年期中を迎えており、それによって、場当たりのコスト削減策に走ることなく、事業強化計画を推進できます。当社の航空機導入・改修プログラムは引き続き順調に進められ、また、新たな施設や設備への計画投資も継続していきます。エミレーツ航空と dnata は、業界をリードする製品と顧客体験の提供に引き続き注力し、世界市場での差別化を図るとともに、優秀な人材を惹きつけ、サービス提供先の地域社会に価値をもたらしていきます。

当グループの基盤は強固です。エミレーツ・グループの実証済みの事業モデルに変わりはありません。ドバイが、世界の商業、貿易、そして人の移動の中心地であることに変わりはありません。世界最高を目指す当グループの志、そして世界に貢献するという使命に変わりはないのです。」

エミレーツ航空の業績

2025-26 年期中におけるエミレーツ航空の旅客および貨物の総輸送能力は 1% 増加し、606 億 ATKM（有効トンキロメートル）に達しました。

当期中にエミレーツ航空は、ダナン、杭州、シェムリアップ、深圳の4都市への新規就航を開始し、さらに顧客需要に応えるため既存就航地への運航便も拡充しました。2026年3月31日時点で、エミレーツのグローバルネットワークは、80か国152都市に広がっています。エミレーツは提携関係も拡大し、32社とのコードシェア提携および117社とのインターライン提携を通じて、自社ネットワークを超える1,700以上の都市へのスムーズなアクセスをお客様に提供しています。

当期、エミレーツ航空は15機のエアバスA350型機を導入し、旅客機材を拡充しました。これにより、人気のプレミアムエコノミークラスや次世代型機内エンターテインメントシステムを含む最新サービスを、より多くのお客様に提供できるようになりました。2026年3月31日時点で、エミレーツはエアバスA350型機を19機の保有しており、21都市への路線を運航しています。

2026年3月末時点で保有している貨物機材数は合計277機で、機材の平均使用年数は10.8年でした。

2025年のドバイ航空ショーにおいて、エミレーツ航空は、カタログ価格ベースで414億米ドル規模となる追加機材投資を発表しました。内容は、65機のボーイング777-9型機と、8機のエアバスA350-900型機の追加発注です。2026年3月31日時点で、エミレーツ航空の発注残は367機に達しており、内訳は、エアバスA350型機が54機、ボーイング777X型機が270機、ボーイング787型機が35機、そしてボーイング777フレイター型機が8機で、導入は2038年まで予定されています。

市場全体で高まる需要に対応し戦略的に輸送能力を配分した結果、エミレーツ航空の当期の売上高は前期比2%増加の、1,309億ディルハム（357億米ドル）となりました。航空会社の主要市場の一部における為替変動は、エミレーツ航空の収益性に好影響を与え、3億3,200万ディルハム（9,000万米ドル）の増益要因となりました。

エミレーツ航空の好調な事業実績により、2025-26年期の営業キャッシュフローは、320億ディルハム（87億米ドル）となり、同航空会社の事業成長計画を継続的に支えることが可能となりました。

2025-26年期のエミレーツ航空の営業費用は前期比で2%増加しました。2025-26年期中において、エミレーツ航空のコストの中で最も高かったものは燃料費と人件費であり、次いで所有コスト（減価償却費および償却費）でした。営業費用全体に占める燃料費の割合は、2024-25年期の31%から29%に減少しました。平均燃料価格が7%下落したことで、運航

拡大による燃料使用量の 1% 増加が相殺され、エミレーツの燃料費は前年の 326 億ディルハム（89 億米ドル）から、312 億ディルハム（85 億米ドル）へわずかに減少しました。

各市場セグメントにおける旺盛な旅行需要に加え、強力な路線ネットワーク、高品質な製品・サービスによって顧客から選ばれる力を発揮した結果、エミレーツは航空、税引後利益として過去最高となる 197 億ディルハム（54 億米ドル）を達成しました。これは前年の 191 億ディルハム（52 億米ドル）を上回るもので、純利益率は 15.0% という非常に高い水準に達しました。これはエミレーツ航空史上最高の業績であると同時に、2025-26 年期の航空業界全体においても最も優れた業績でした。

エミレーツ航空では、2025-26 年期中に 5,320 万人の旅客を輸送しました（前年比 1% 減）。また、座席供給量も 1% 減少しました。また、座席利用率は 78.4% となり、前期の 78.9% からわずかに低下しました。旅客単位収益は、有償旅客キロ（RPKM）あたり 38.1 フィルス（10.4 米セント）となり、前期より 4% 上昇しました。

エミレーツ航空は、顧客体験のさらなる向上のための投資を継続しました。11 月に、機材へ高速 Wi-Fi を導入するため、Starlink との契約を発表しました。エミレーツ航空は Starlink の導入を迅速に進め、3 月 31 日時点で、すでに 21 機への搭載を完了し、利用客に「空の上で最高水準の接続環境」を提供しています。今後はさらなる導入機材を拡大する予定です。

当期において、エミレーツ航空による 50 億米ドル規模の機材改修プログラムが、引き続き順調に進められました。現在までに、改修対象 215 機のうち 91 機で全面的な客室リフレッシュが完了しており、人気のプレミアムエコノミー座席を含む、エミレーツ最新の機内設備・サービスが導入されています。

地上サービスでは、ドバイ国際空港のエミレーツ専用ターミナル 3 において、ファーストクラスご利用のお客様およびスカイワーズ・プラチナ会員専用の新しいチェックインラウンジ「エミレーツ・ファースト」を開設しました。また、ファーストクラスおよびビジネスクラスご利用のお客様向けの無料送迎サービスを成田国際空港と関西国際空港で開始し、さらにクラーク国際空港（フィリピン）ではエコノミークラスご利用のお客様向けの無料バスサービスを導入しました。

エミレーツ航空は、さまざまなアクセシビリティのニーズを持つ旅行者が旅程を計画しやすくするため、emirates.com 上に新たな「アクセス性が高く包摂的な旅行ハブ」を開設しました。また、エミレーツは、子どもや大人向けの新しい機内用感覚サポート製品やフィジエ

ット玩具を導入したほか、自閉スペクトラム症（ASD）の子どもとその家族の旅行不安を和らげるため、世界各地の数十の空港で「模擬旅行体験」を実施しました。

当期中、エミレーツ航空は、完成時に 12,000 人の客室乗務員が居住可能となる数十億ディルハム規模の住宅コミュニティ「エミレーツ・キャビン・クルー・ビレッジ」の建設用地を確保するため、ドバイ・インベストメント・パークと契約を締結しました。また、エミレーツ航空は、機材拡大を支えるための新しい乗務員訓練センターを開設したほか、25,000 人規模の客室乗務員に世界水準のホスピタリティ研修を提供する「エミレーツ・センター・オブ・ホスピタリティ」を立ち上げました。

エミレーツ・スカイワーズは、25 周年を記念して、大規模なプロモーションキャンペーンを実施するとともに、会員向け特典の充実を図りました。主な取り組みとしては、フライドバイの全路線・全クラスでクラシック・リワーズ特典航空券の利用を可能にしたこと、エミレーツのプレミアムエコノミーでクラシック・リワーズとアップグレード・リワーズを利用可能にしたこと、さらに、プラチナ・ステータス付きの希少なスカイワーズ会員番号 7 件を慈善オークションに出品したことなどが挙げられます。

貨物部門であるエミレーツ・スカイカーゴでは非常に好調な一年となり、世界中で 240 万トンの貨物を輸送しました。これは前期から 3% 増加しています。

当期中に 5 機のボーイング 777 フレイター型機を導入し、貨物専用機による輸送能力が 13% 拡大しました。

エミレーツ・スカイカーゴの売上は、162 億ディルハム（44 億米ドル）と堅調で、エミレーツ全体の売上高の 12% を占めました。旅客単位収益は、有償貨物トンキロ（FTKM）当たりで 3% 低下しました。これは、市場競争圧力に加え、特に EC 分野における関税の影響を受けたためです。

総じて、エミレーツ・スカイカーゴの業績は、多様な専門物流ソリューションを通じて顧客から高い支持を得ていることに加え、エミレーツのグローバルネットワーク、ドバイが誇る世界水準の複合物流機能、そしてデジタル技術、インフラ、製品への継続的な投資を反映したものとなりました。

当期中、バンコク、ブダペスト、リエージュ、成田への追加就航により、貨物専用機ネットワークを 44 拠点へ拡大しました。また、既存の貨物路線では運航頻度を増やし、トラック輸送ネットワークも拡充しました。

エミレーツ・スカイカーゴでは、顧客ごとに最適化した貨物輸送ソリューションの提供を通じて、差別化を図る戦略を引き続き展開し、本年、革新的な国際ドアツードア配送ソリューション「エミレーツ・クーリエ・エクスプレス」を開始しました。また、航空、エンジニアリング、防衛、宇宙産業向けに、時間厳守が求められる部品輸送を行う専門サービス群「エアロスペース・アンド・エンジニアリング」を新たに立ち上げました。

2026年3月末時点において、エミレーツ・スカイカーゴが保有する貨物専用機はボーイング777フレイター型機13機となり、さらに8機の導入を予定しています。

エミレーツ航空は、当期中に20機の新造機を導入し、さらに、リース契約終了時に29機のエアバスA380型機と5機のボーイング777型機を買い取りました。機材計画を支えるため、エミレーツ航空は、国内外の市場を通じて100億ディルハムの航空機融資を調達しました。これには、日本型オペレーティングリース（JOL）、保険付きファイナンス、フランス税制リース、輸出信用機関（ECA）支援型スキームなどが含まれます。

潤沢なキャッシュバランスと営業キャッシュフローを背景に、エミレーツ航空は2025-26年期中において、航空機の引渡し前支払いや各種ファイナンス債務など、すべての契約上の義務を履行しました。その上で3月31日時点にて549億ディルハム（150億米ドル）の現金準備金が計上されました。

エミレーツ航空は、ブレント原油価格と精製マージンの変動リスクに備えるため、シンプルな先渡し契約を継続的に活用しました。また、金利変動の影響を軽減するため、長期金利ヘッジも利用しました。世界規模で事業を展開していることによる大きな通貨エクスポージャーに対応するため、エミレーツは、通貨オプション、先渡し契約、およびナチュラルヘッジを活用して、為替変動リスクの管理を継続しました。この体系的なアプローチにより、変動の激しい市場環境においてもキャッシュフローの予測可能性を確保し、財務の安定性を強化しています。

エミレーツ・グループ傘下の企業・子会社では、エミレーツ・フライト・ケータリング（EKFC）およびMMI / エミレーツ・レジャー・リテール（ELR）が、2025-26年期中において顕著な業績貢献を果たしました。

エミレーツ・フライト・ケータリングは、外部顧客からの売上高を12%増の12億ディルハム（3億2,900万米ドル）へ伸ばしました。また、2025-26年期中には、ドバイで100社以上の航空会社向けに1,620万食を提供したほか、ドバイエアーショーやドバイラグビーセブンズといった大規模かつ複雑な国際イベント向けのケータリング契約も獲得しました。

MMI-ELR（エミレーツ・レジヤー・リテール）グループの売上高は 29 億ディルハム（8 億 300 万米ドル）となりましたが、海外事業における厳しい市場環境や、UAE における自治体税免除措置の終了の影響により、前年から 5% 減少しました。当期中、エミレーツ・レジヤー・リテール（ELR）は、米国で空港内小売店および飲食店を運営するエア・ベンチャーズ合同会社の残り 25% の株式を取得し、同社を完全子会社化しました。ELR & MMI は、飲食（F&B）ポートフォリオにおける新店舗展開を進めたほか、地元発ブランドとの提携を拡大し、顧客サービスや顧客エンゲージメント向上のためデジタルプラットフォームも強化しました。

dnata の業績

dnata の 2025-26 年期の税引前利益は 16 億ディルハム（4 億 3,700 万米ドル）となり、前年から 2% 増加しました。すべての事業部門が堅調な業績を示し、特に空港運営部門およびケータリング・小売部門が大きく貢献しました。一方で、税引後利益は 13 億ディルハム（3 億 6,700 万米ドル）となり、前年から 4% 減少しました。これは主に 2025-26 年期中に適用された UAE の法人税率引き上げの影響によるものです。

dnata の総売上高は 12% 増加し、過去最高となる 236 億ディルハム（64 億米ドル）に達しました。これは、オーストラリア、ヨーロッパ、UAE、米国などの世界各地、とりわけ主要市場における航空便数および旅行需要の増加によって押し上げられたものです。

dnata の売上高の 77% は海外事業によるもので、前年から 2 ポイント上昇しました。将来の能力と供給力を強化し、顧客のニーズに対応するため、dnata の 2025-26 年期中の投資額は 8 億 5,800 万ディルハム（2 億 3,400 万米ドル）に達しました。当期中の主な投資には、パースおよび西シドニーにおける新しいケータリング施設、アムステルダムの新貨物施設、さらに環境戦略の一環として導入された空港業務向けの新しい電動・ハイブリッド地上支援機材が含まれます。

dnata はまた、オーストラリアとニュージーランドで航空貨物トラック輸送を手がける Wymap Group を買収したほか、法人・ビジネス旅行サービス強化のため、NDC（New Distribution Capability）対応予約プラットフォーム「WonderMiles」の株式を 7% 取得しました。

dnata は、企業戦略に沿って、多様な事業ポートフォリオを引き続き積極的に管理しました。本年、dnata は、UAE で観光バスツアーを運営する Super Bus の 75% の株式を売却したほか、ドイツではケルン／ボンにおける貨物事業から撤退しました。

2025-26 年期中において、dnata の営業費用は 13% 増加し、221 億ディルハム（60 億米ドル）となりました。これは、空港運営、ケータリング & 小売、旅行部門における事業拡大に伴うものです。

dnata のキャッシュバランスは、主に営業キャッシュフローによって 10 億ディルハム増加し、47 億ディルハム（13 億米ドル）となりました。同社は、2025-26 年期中に 24 億ディルハム（6 億 5,800 万米ドル）のプラスの営業キャッシュフローを計上しました。これは、各事業部門からの健全な売上貢献を反映したものです。

地上支援および貨物取扱を含む dnata の空港業務の売上高は、112 億ディルハム（31 億米ドル）へ増加しました。

dnata が全世界で取り扱う航空機の対応回数は前期比 12% 増加の 888,793 回となり、貨物量取扱量は同 2% 増の 320 万トンに達しました。これは、新規契約の獲得や、特に海外事業において、dnata の顧客である航空会社の運航便数の増加を反映したものです。

本年、dnata は、2027 年後半に開港予定のアゼルバイジャンのアラト国際空港において、地上支援業務および貨物取扱業務を開始するための合併事業契約を締結したことを発表しました。

dnata はアムステルダムに新たな完全自動化貨物施設を開設しました。これは同種施設として最大級の規模を誇り、年間 60 万トンの処理能力を持ち、7,000 万ユーロ規模の投資となっています。

イタリアにおいて、dnata は現地子会社を完全取得した後、すべての地上業務を自社ブランドおよび事業体制の下に統合しました。また、dnata は、ローマにおける最新型の地上支援機材（GSE）の導入に向けて追加で 2,000 万ユーロを投資し、さらにミラノでは新しい貨物施設建設のため 2,500 万ユーロを投じることを決定しました。dnata は、マンチェスターにおいて、同社の代表的サービスである「marhaba」ミート & グリートサービスを開始しました。

dnata のケータリング・小売事業の売上高は、81 億ディルハム（22 億米ドル）の売上高を計上し、前年比で 13% 増加しました。これは、戦略的な顧客セグメントにサービスポートフォリオを集中させる同社戦略の成功を反映したものです。機内ケータリング事業では、航空会社顧客向けに 1 億 1,530 万食を提供し、前年比で 1% 増加しました。

同部門は 2025-26 年期中に、22 件の契約更新と 13 件の新規顧客獲得を実現しました。その中には、エアリングスの機内販売プログラムを運営する 5 年間の契約も含まれています。

また、dnata は、デンパサール国際空港において専門的なケータリング支援を提供する長期運営契約を通じて、インドネシア市場へ事業を拡大しました。

dnata の旅行サービス部門の売上高は 5% 増加し、41 億ディルハム（11 億米ドル）となりました。これは、dnata の英国旅行会社と Destination Asia からの力強い貢献によるものです。

販売された旅行サービスの総取扱高（TTV）は前年比で 3% 増加し、101 億ディルハム（27 億米ドル）となりました。これは、dnata の旅行サービス部門が、世界各地のさまざまな顧客層に対して、適切な B2B および B2C の旅行商品の提供を実現していることを示しています。

当期を通じて、dnata の旅行部門は、商品ポートフォリオの強化を継続するとともに、B2B および B2C の顧客向けの提携や商品を拡充し、さらに顧客サービス向上と業務最適化のため技術基盤の強化も進めました。特に 2025-26 年期には、Imagine Cruising が米国で正式に事業を開始しました。また、Destination Asia は探検型クルーズ向けの専門サービスを導入し、同社の Events and Cruise Asia ブランドはソウルに新オフィスを開設しました。さらに、dnata Representation Services は、旅行業界パートナー向けに、GSA 製品用の新しい B2B オンライン予約ポータルを立ち上げました。

UAE において、dnata Travel は新たな法人顧客および航空会社 GSA 契約を獲得しました。また、Arabian Adventures は、新しい高級砂漠体験「Nomad Garden」を開始し、オマーンではオーダーメイド型旅程を通じて事業展開を強化しました。

英国において、dnata は旅行事業の戦略的見直しを完了した後、オンライン旅行ブランドである Travel Republic および Netflights の売却を発表しました。

サステナビリティ

エミレーツ・グループは、環境への影響低減と地域社会との関わり強化のため、引き続き資源を投入し、パートナー企業と連携して取り組みを進めました。

2025-26 年期におけるエミレーツ・グループの主な環境施策には、以下の取り組みがあります。

- エミレーツ航空は、ドバイの空港における持続可能な航空燃料（SAF）の供給可能性を検討するため、ENOC グループと覚書（MoU）を締結しました。また、ドバイ航空管制

サービス (DANS) およびタレスと共同研究を開始し、到着機の待機旋回の削減、UAE 空域の運用効率向上、そして燃料消費の最適化に取り組みました。

- エミレーツ航空は、航空業界における循環型経済の取り組みを推進するため、航空産業循環推進協議会に参加しました。
- エミレーツ・フライト・ケータリング (EKFC) は、大規模バイオディジェスターを導入し、埋立廃棄物および CO₂ 排出量を年間 2,000 トン削減する取り組みを開始しました。また、シャルジャの Alpha Catering は、空港内飲食店舗から出る使用済みのコーヒー粕を堆肥化用に再利用し、さらに dnata Travel は、サステナビリティプラットフォームである Reloop と提携し、毎月 500kg を超える食品廃棄物を埋立処分から回避しています。
- エミレーツ・グループは、各事業部門で保有する大規模な地上支援機材および車両フリートに対して、電動・ハイブリッド・低排出型オプションの継続的な見直しと調達を進めました。特に、dnata の空港運営およびケータリング業務、エミレーツ・スカイカーゴ、そしてエミレーツ・フライト・ケータリング (EKFC) で重点的に実施されています。
- エミレーツ航空は、オーストラリアのグレーター・ブルー・マウンテンズ世界遺産地域内にある 7,000 エーカーの自然保護区に位置する高級リゾート「エミレーツ・ウォルガン・バレー」に対し、追加で 5,000 万豪ドルを投資すると発表しました。
- エミレーツとウィンブルドン選手権は、英国の 4 つのワイルドライフ・トラストと提携し、「Championing Nature」という取り組みを開始しました。この複数年、数百万ポンド規模の取り組みは、都市部の恵まれない子どもや若者たちが、より自然に触れられる機会を増やすことを目的としています。

2025-26 年期におけるエミレーツ・グループの主な地域社会貢献活動には、以下の取り組みがあります。

- エミレーツ航空基金は、社会起業家や NGO と連携しながら、恵まれない子どもたちに対して教育、住居、食料、医療サービスを提供する活動を継続しています。今年、エミレーツ航空基金は、世界各地で 13 件の支援プロジェクトを実施し、医療支援活動のために 500 枚以上の航空券を提供しました。
- エミレーツは、スポンサーパートナーとの共同プログラムを拡充し、より多くの恵まれない若者たちがスポーツの恩恵を受けられるよう支援しています。今年の主な取り組みには、エミレーツが資金提供する「Force for Good」プログラムが含まれており、米国とオーストラリアの地域コミュニティで、子どもや若者たちがテニスに触れられる機会を広げています。また、NBA Cares とのプロジェクトでは、米国における若者向けレクリエーション施設や地域学習スペースの改修支援も行われました。
- 世界各地で、dnata の「dnata4good」プラットフォームを通じた従業員主導のさまざまな活動が実施され、慈善団体、恵まれない人々、地域コミュニティへの支援が行われま

した。今年の主な取り組みとしては、オーストラリアにおいて約 68,000kg の食品をフードレスキュー慈善団体へ寄付したこと、インドで視覚障害のある子どもたちが職業訓練を受けられるよう支援するため点字プリンターを寄贈したこと、さらにローマで移民や困窮するホームレスの人々に住居支援を提供するプロジェクトへベッドを寄付したことなどがあります。

- UAE におけるラマダン期間中、dnata は 8 万ディルハム以上を募金し、500 人以上のボランティアを動員するとともに、5,300 食以上の食事を提供し、ドバイ慈善団体を支援しました。MMI は、アル・ジャリラ財団のために 25 万ディルハム以上を募金し、同団体と協力して 1 万 5,000 食の食事を配布しました。

エミレーツ・グループの環境・社会・ガバナンス（ESG）に関する取り組みの詳細については、エミレーツ・グループ年次報告書 2025-26（The Emirates Group Annual Report 2025-26）全文をご覧ください。

エミレーツ・グループ（エミレーツ航空、dnata、および各社の子会社で構成）の 2025-26 年次報告書は、以下のウェブサイトよりご覧いただけます：

www.theemiratesgroup.com/annualreport

（英文）

以上

米ドル数値は 1 米ドル=3.67 ディルハムで換算され、ディルハム数値は百万桁で四捨五入されています。